

## 現代福祉学部

### I 2012年度認証評価 努力課題課題に対する改善計画（報告）書

該当なし

### II 2015年度 大学評価委員会の評価結果への対応

#### 【2015年度大学評価結果総評】

現代福祉学部は、現在の状況に対して客観的な分析をおこない、改善すべき点を検討し、達成目標を具体的に明示することで改革を効果的に実行している点が高く評価できる。

教員像・教員組織の編制方針については、学位授与方針およびカリキュラムを前提として、人事方針検討委員会およびカリキュラム検討委員会において、適切な科目および教員配置について検討がなされており、評価できる。特に学部内のFD活動において、専任教員だけでなく非常勤講師も招いて大学院教授会と合同開催のWell-being研究会を開催し、教員間の研究交流や授業改善のための意見交換の場を設けており、大変優れた取り組みである。

教育課程・教育内容については、2014年度から新たなカリキュラムが導入され、学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系的性が確保されている。これは学部独自のカリキュラム改善アンケートによる学生や教員からの要望に基づくもので、カリキュラム改革に学生の声が反映された点は高く評価できる。また、新カリキュラムが始動した後も継続的にモニタリングをおこない、学生へのヒアリングを通して改善点などを検討しており、高く評価できる。さらに、初年次教育、キャリア教育、外国語教育についても特色ある取り組みがおこなわれており、高く評価できる。

一方、学生の学習時間（予習・復習）の確保については、シラバスに各回の授業内容を明示するだけでは十分な効果が得られない可能性があり、さらなる検討が望まれる。また、授業相互参観、異なる学科間での合同ゼミなど、教育方法について様々な取り組みがおこなわれているが、これらの取り組みが新たな授業形態の導入に結びついているのかどうか、引き続き検討が望まれる。

学生の学習成果については、学習の集大成である卒業論文のテーマ一覧を作成し共有するなど、適切に可視化されている。また、成績不振の学生についても、ゼミ担当教員や教務委員を中心に当該学生の状況を確認するなど、きめ細かな対応をとっており、高く評価できる。一方、学生成果の測定については、英語については入学時と1年次終了時に測定しているものの、その他の科目についてはおこなわれておらず、検討が期待される。

学生の受け入れについては、学部が求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明確にしたアドミッション・ポリシーが学科ごとに適切に明示されている。

内部質保証については、FD検討委員会、質保証委員会、教授会など様々な会議体で情報共有や検討がおこなわれており、PDCAサイクルが効果的に機能していると考えられる。

最後に、特筆すべき点として、現代福祉学部では社会連携や社会貢献に力を入れており、社会へのサービス活動として、様々な実習の報告会を、実習受入先などの関係者を招いて開催したり、団地再生プロジェクトやコミュニティ活性化プロジェクトなどにおいて、専門演習（ゼミ）と地域関係団体とが連携協力する取り組みをおこなったり、東日本大震災で被害を受けた三陸海岸とその後背地の復興支援と地域活性化に取り組む「遠野プログラム」を継続しておこなうなど、あらゆる形で社会とのつながりを維持しており、大変優れた取り組みであると考えられる。

現状分析シートについて付言しておくならば、折角のよい取り組みが記載されていないこと、具体的な記述がすこし不足しがちであること、など、必ずしも不備とは言いきれないが、それでも、適切な記述をこころがけることで自己点検活動も第三者にむけてよりよく可視化されるので、書き方の工夫をしていただきたい。

#### 【2015年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400字程度まで）

自己点検評価結果および大学評価委員会の評価結果について、教務委員会、教授会および学部教育に関する中・長期的検討を行う将来構想委員会において、その内容を共有し、対応に関する検討を行っている。現状分析シートの記述については、よりわかりやすい書き方を工夫したい。

### III 自己点検・評価

#### 1 教員・教員組織

##### 【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

##### 【教員像および教員組織の編制方針】（2011年度自己点検・評価報告書より）

本学部の教員は、大学・学部の教育理念の基本的理解を前提として、(後述する)各学科の教育目標並びに学部・学科のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを実現できる教員であることを求めている。

具体的には、学部教育への入門期(1年生)における基礎演習は、開講数のほとんどを専任教員が担当することとしている。基礎演習を兼任教員にお願いする際でも、本学部教育にかかわりのある教員にお願いすることを基本としている。また専門基礎科目についても、その科目の大半を専任教員が担当することとしている。専門教育が本格化する2・3年生では、専門基幹科目について、その科目の大半を専任教員が担当することとし、専門演習Ⅰ・Ⅱ、実習や実習指導科目は、原則として専任教員が担当することとしている。最後に学部・学科教育のまとめをする4年生では、専門演習Ⅲおよび卒業論文の指導は専任教員が担当することとしている。このように、学部専門教育の基礎や基幹となる科目、学部教育の特徴である実習科目、そして最も学生と身近な存在である基礎演習と専門演習については、そのほとんどを専任教員が担当することを、教員組織の編制方針としている。また実習教育をサポートする教員として実習指導講師(任期付助教)を採用し、よりきめ細かな実習教育を実現することとしている。

1.1 学部等として求める教員像および教員組織の編制方針を明確にしているか。

①採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていますか。

はい いいえ

【根拠資料】※教員に求める能力・資質等を明らかにしている規程・内規等の名称を記入。

- ・学部教授会内規 2-1 専任教員招聘規則
- ・学部教授会内規 2-2～2-4 公募実施細則、兼任講師委嘱基準、特別招聘細則
- ・学部教授会内規 3-1 専任教員の身分昇格
- ・学部教授会内規 学部任期付教員招聘細則、教員の採用及び昇格の選考に関する内規
- ・規程第 975 号 現代福祉学部助教に関する規程

②組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。

はい いいえ

【学部執行部の構成、学部内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。

- ・教授会執行部 4 名(学部長 1 名、教授会主任 1 名、教授会主任・実習委員長 1 名、教授会副主任 1 名)
- ・教授会(原則として月に 2 回)
- ・執行部会議
- ・教務委員会
- ・学部 FD 検討委員会
- ・質保証委員会
- ・将来構想委員会

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

③教員組織の編制において大学院教育との連携を考慮していますか。

はい いいえ

(～400 字程度まで)※教員組織の編制において大学院教育との連携にあたりどのようなことが考慮されているか概要を記入。

大学院を担当する教員についても、学部同様の規定整備を行い、大学院教育への順次的連続性と専門性の確保に努めている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

1.2 教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。

①学部(学科)のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。

はい いいえ

(～400 字程度まで)※教員像および教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性等の観点から教員組織の概要を記入。2010 年度の学科改組にもとづき、学部・学科のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

2015 年度専任教員数一覧

(2015 年 5 月 1 日現在)

学部・学科	教授	准教授	講師	助教	合計	設置基準上 必要専任教 員数	うち教授数
福祉コミュニ ティ	13	3	0	3	19	14	7
臨床心理	8	1	0	1	10	10	5
学部計	21	4	0	4	29	24	12

専任教員 1 人あたりの学生数 (2015 年 5 月 1 日現在) : 32.3 人

②特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。  はい  いいえ

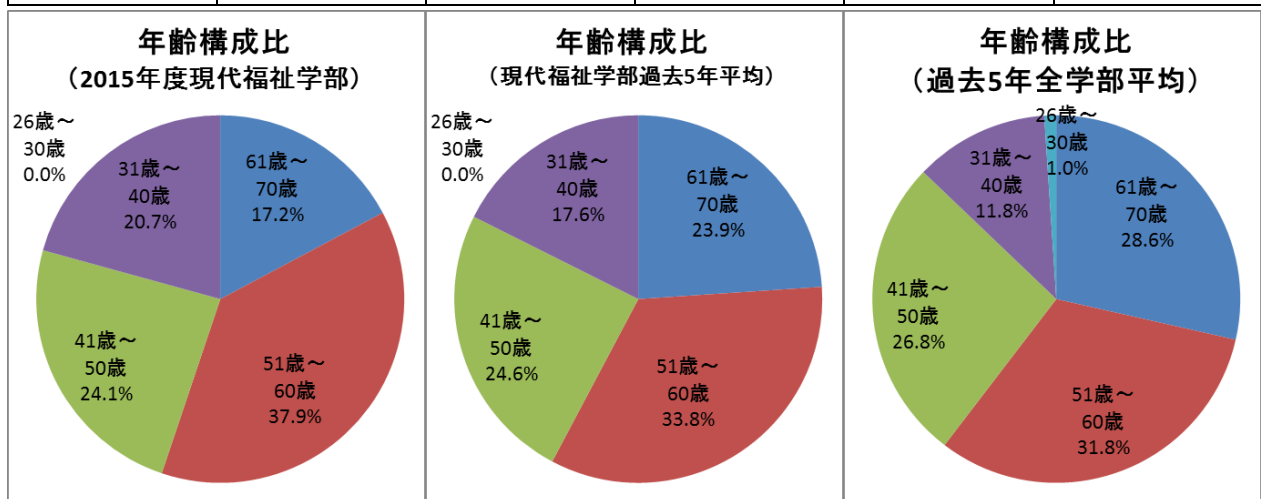
【特記事項】(～200 字程度まで) ※ない場合は「特になし」と記入。  
教員の年齢構成については採用時の配慮事項としており、年齢層の偏りが改善されつつある。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。  
・特になし

年齢構成一覧

(2015 年 5 月 1 日現在)

年度\年齢	26～30 歳	31～40 歳	41～50 歳	51～60 歳	61～70 歳
2015	0 人 0.0%	6 人 20.7%	7 人 24.1%	11 人 37.9%	5 人 17.2%



1.3 教員の募集・任免・昇格は適切に行われているか。

①各種規程は整備されていますか。  はい  いいえ

【根拠資料】※教員の募集・任免・昇格に関する規程・内規等の名称を箇条書きで記入。  
 ・学部教授会内規 2-1 専任教員招聘規則  
 ・学部教授会内規 2-2～2-4 公募実施細則、兼任講師委嘱基準、特別招聘細則  
 ・学部教授会内規 3-1 専任教員の身分昇格  
 ・学部教授会内規 学部任期付教員招聘細則、教員の採用及び昇格の選考に関する内規  
 ・規程第 975 号 現代福祉学部助教に関する規程

②規程の運用は適切に行われていますか。  はい  いいえ

【募集・任免・昇格のプロセス】※箇条書きで記入。「上記根拠資料の通り」と記載し、内規等(非公開)を添付することでも可。  
 ・上記根拠資料の通り

1.4 教員の資質向上を図るための方策を講じているか。

①学部(学科)内のFD活動は適切に行なわれていますか。 A  B  C

【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。  
 ・学部内では、非常勤講師も招いて大学院教授会と合同開催の Well-being 研究会を毎年 2～3 回開催し、研究交流を図りながら教授法についてもディスカッションし FD 活動を推進している。

**【2015年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】** ※箇条書きで記入。

・Well-Being 研究会

■第1回

・日時：2015年6月27日（土）

・15:30～17:00（発表：各20～25分、コメント：各5～10分）

岩田美香 教授「社会的養護における「家庭的」支援の検討－児童自立支援施設からの考察－

馬場憲一 教授「NPO等との市民協働による文化財政策実現のための基礎的研究－研究の背景と問題関心を中心に－」

宮城 孝 教授「要介護高齢者の在宅ケアを継続する地域包括ケアシステムの開発に関する研究」

・会場 法政大学 市ヶ谷キャンパス内 S407 教室（外濠校舎4階）

■第2回

・日時：2015年11月18日（水） 15:10～16:40

・会場：福祉201教室

・テーマ 「大人数授業でのアクティブラーニングについて」

・湯浅 誠 教授

■第3回

・日時：2016年3月1日（水） 13:30～15:00

・会場：福祉301教室

・岩崎晋也 教授 「社会福祉とはなにか」

・長山恵一 教授 「マックス・ヴェーバー研究について」

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。

・FD推進研究会への外部講師派遣依頼

・2015年度Well-Being研究会開催の案内

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし
-------

**【この基準の大学評価】**

現代福祉学部では、教員に対し、学部の教育理念の基本的理解と学部・学科のディプロマ・カリキュラムを実現することを求め、その能力・資質等については、学部教授会内規等に明文化している。組織的教育を実施するのに必要な役割分担、責任の所在も教授会以下の組織によって明確にされている。具体的には、学部専門教育の基礎や基幹となる科目、学部教育の特徴である実習科目、そして最も学生と身近な存在である基礎演習と専門演習については、そのほとんどを専任教員が担当することを教員組織の編制方針としている。大学院担当教員についても、学部同様の規程整備が行われ、大学院教育への順次の連続性と専門性の確保の努力が行われている。

教員採用にあたっては、カリキュラムにふさわしい教員組織を形成するため、年齢層の偏りが解消されつつある。教員の募集・任免・昇格については上記学部教授会内規などの規程に明文化され、規程は適切に運用されている。学部内では、非常勤講師も招いて大学院教授会と合同開催のWell-being研究会を毎年2～3回開催し、FD活動を推進している。

2 教育課程・教育内容

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

<p><b>【教育課程の編成・実施方針】</b></p> <p>総合教育科目は、学部共通科目（2 学科でほぼ共通）として、大学での基礎的スキルとしてのコミュニケーション・スキル、情報リテラシー、論理的な思考力や Well-being を多角的に理解するための幅広い知識を習得するための科目を置いている。専門教育科目においては、それぞれの学科の専門を学ぶ科目が置かれているが、Well-being を実現するために必要な専門的知識、専門的スキルを獲得するための科目を編成している。</p> <p>専門教育科目では、講義科目だけではなく、多彩な実習関連科目を設置し、Well-being を実現する人材として必要な倫理的態度、自己管理能力、チームワークの習得や、様々な施設の専門職員や地域住民などと協力しながら、社会で起きている実際の課題に取り組み解決する力を獲得することができる教育編成となっている。</p> <p>また専門演習では、3 年間同一の教員から指導を受け、卒業論文等を作成することで、身に付けた知識・スキル・態度を総合的に活用し、自らが立てた研究課題にそれらを適用し、論文としてまとめあげる力を習得することとしている。基礎演習、専門演習、実習関連教育においては、原則として 10～20 名程度の少人数教育を行うことで、全学年において個々の学生の特性に応じたきめ細かな教育を行うことを方針としている。</p> <p>こうしたカリキュラムポリシーを学生に周知させるために、通常の学生ガイダンスの他に、個別履修相談や基礎演習での説明等に取り組んでいる。</p>	
<p>2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。</p>	
<p>①学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。</p>	<p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C</p>
<p>(～400 字程度まで) ※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修への配慮が行われているか概要を記入。 カリキュラムの順次性・体系性を維持しつつ、学生の能力育成の観点から学部の教育理念に基づきカリキュラムを 2014 年度から改編している。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2016 年度現代福祉学部履修の手引き（各学科カリキュラム構成図）</p>	
<p>②幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。</p>	<p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C</p>
<p>(～400 字程度まで) ※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。 専門領域を超えて人間的・社会的・文化的価値を学んで人間性の涵養を図り、社会における総合的な判断力を培うことを目的として「総合教育科目」を数多く配置している。それらは、学部共通科目、視野形成科目、言語コミュニケーション科目、情報・調査系科目に細分化される。 1 年次からの専門教育偏重をさけるために、専門基礎科目と専門基幹科目（一部を除く）以外の専門教育科目は 2 年次からの配当としている。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2016 年度現代福祉学部履修の手引き（各学科カリキュラム構成図）</p>	
<p>2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。</p>	
<p>①学生の能力育成のための教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。</p>	<p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C</p>
<p>(～400 字程度まで) ※学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。 本学部は両学科ともに、学生の能力育成の観点から、「社会福祉」「地域づくり」「臨床心理」などの領域で働く、専門性の高い職業人の養成を大きな目標の一つとしている。社会福祉学・心理学などの本学部の根幹となる学問の体系性に鑑み、基礎から応用へと学習の体系性・順次性を確保したカリキュラム編成がなされているとともに、これらの知識・技能を基盤として 3～4 年次においては実習教育（ソーシャルワーク実習、精神保健ソーシャルワーク実習、スクールソーシャルワーク実習、コミュニティスタディ実習、臨床心理実習）を行うことで、机上の学問から実践力へと展開するカリキュラム編成がなされている。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2016 年度現代福祉学部履修の手引き（各学科カリキュラム構成図） ・2016 年度現代福祉学部履修の手引き（各学科 II. カリキュラム 1～4）</p>	
<p>②初年次教育、キャリア教育は適切に提供されていますか。</p>	<p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C</p>
<p>(～400 字程度まで) ※学生に提供されている初年次教育、キャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p>	

1 年生を対象とした少人数の演習形式で行う基礎演習を開設し、大学における学習の方法や技術に関する初年次教育を実施している。「社会福祉」「地域づくり」「臨床心理」の各現場において専門的な業務に従事する現職者を招き、実務領域の業務と課題に関する「フィールドスタディ入門」などの講義を実施し、職業選択に関わる広い視野の形成を促す教育を行っている。さらに、キャリア教育の一環として、大学における学習と職業選択の関連性や就職活動の実際について学習する「キャリアデザイン論」を開設し、より実践的な教育を行っている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2015 年度現代福祉学部履修の手引き（各学科カリキュラム構成図）
- ・2015 年度現代福祉学部履修の手引き（各学科 II.カリキュラム 1.カリキュラム）
- ・『基礎演習』における春学期（前期）共通プログラムについて

③学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。

A  B C

(～400 字程度まで) ※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

本学部においては、海外留学や海外企業および国際機関への就職を目指す学生を対象とした高度な英語教育プログラムとして、ネイティブスピーカーによる「インテンシヴ・イングリッシュ」を開講している。また、学生の国際性を涵養するために、海外の先進的な福祉・地域・心理の実践を学ぶ「海外研修制度」（2 年生 30 名）を設けている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2016 年度現代福祉学部履修の手引き（各学科カリキュラム構成図）
- ・2016 年度現代福祉学部履修の手引き（各学科 II.カリキュラム 1.カリキュラム、III.研修・海外留学・英語プログラム）

## (2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

## (3) 現状の課題・今後の対応等（必須項目）

※（1）～（2）の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

- ・基礎演習における指導内容について、検討を行う。

## 【この基準の大学評価】

現代福祉学部ではカリキュラムの順次性・体系性を維持しつつ、学生の能力育成のためのカリキュラム改編が 2014 年度から行われている、専門領域を超えて人間的・社会的・文化的価値を学んで人間性の涵養を図り、社会における総合的な判断力を培うことを目的とする「総合教育科目」が設置され、1 年次からの専門教育偏重を避ける配慮がされているのは評価できる。

2 つの学科を通じて「社会福祉」「地域づくり」「臨床心理」などの領域で働く、専門性の高い職業人の養成を大きな目標の一つとし、基礎から応用へと学習の体系性・順次性を確保したカリキュラム編成がなされているとともに、これらの知識・技能を基盤として 3～4 年次においては実習を通じて実践力が養われている。1 年生を対象とした少人数の基礎演習による初年次教育から、専門課程では、実務者を招いての講義が配置され、職業選択に関わる広い視野の形成を促す教育への配慮がうかがわれる。高度な英語教育プログラム「インテンシヴ・イングリッシュ」、学部独自の「海外研修制度」で学生の国際性涵養を目指している。

## 3 教育方法

### 【2016 年 5 月時点の点検・評価】

#### (1) 点検・評価項目における現状

3.1 能力育成の観点から教育方法および学習指導は適切か。

①学生の履修指導を適切に行っていますか。

A  B C

【履修指導の体制および方法】※箇条書きで記入。

- ・年度当初に学年ごとの履修ガイダンスを実施し、科目履修に関するきめ細かな指導

<ul style="list-style-type: none"> <li>履修相談会を開催し、ガイダンスでの内容を踏まえ、専任教職員による個別の履修相談を実施</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ガイダンス資料（ガイダンス日程・各学年のガイダンス配布資料・履修相談会相談用紙）</li> </ul>	
②学生の学習指導を適切に行っていますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>学生への学習指導については、基礎演習・専門演習・実習関連教育などにおいて、原則として20名以下の少人数教育を行うことで、きめ細かな学習指導を行っている。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2016年度現代福祉学部履修の手引き（各学科カリキュラム構成図）</li> <li>2016年度現代福祉学部履修の手引き（各学科 IIカリキュラム 2.演習・実習科目）</li> <li>『基礎演習』における春学期（前期）共通プログラムについて</li> </ul>	
③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>シラバスにおいて各回の授業内容を明示し、学生の学習時間（予習・復習）の確保を促している。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>シラバス</li> </ul>	
④教育上の目的を達成するため、新たな授業形態の導入に取り組んでいますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p><b>【具体的な科目名および授業形態・内容等】</b> ※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業相互参観（春学期と秋学期に実施し、授業形式に関する情報交換）</li> <li>研究活動でお世話になった一般社会人なども招いての公開卒論発表会（一部のゼミ）</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2015年度 授業相互参観報告書</li> </ul>	
3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。	
①シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
<p><b>【検証体制および方法】</b> ※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教授会においてシラバスの充実を確認するとともに、兼任・兼任教員を含めすべての教員に講義概要の執筆依頼を配布し、詳細かつ適切な内容記述に関する注意喚起を行っている。</li> <li>2014年度から、教務委員会がすべての講義のシラバスを検証し、改善すべき点を担当教員に伝えるプロセスを導入している。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>シラバス点検作業原稿、チェックリスト</li> </ul>	
②授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
<p><b>【検証体制および方法】</b> ※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>シラバスの運用の適切性については、授業改善アンケート等の結果を参考として検証している。</li> <li>基礎演習に関しては、春学期は共通のシラバスとなっているため、開講前に担当教員間で授業内容や方法などについて確認を行っている。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2015年度 授業改善アンケート結果</li> <li>『基礎演習』における春学期（前期）共通プログラムについて</li> </ul>	
3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p><b>【確認体制および方法】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個々の教員の成績評価法・評価基準については、シラバスの記載に基づいて適切に運用されている。また、一部の授業を除いて、成績評価の基準の統一を図っている。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(現代福祉学部) 成績評価割合のガイドラインについて</li> </ul>	
②他大学等における既修得単位の認定を適切な学部(学科)内基準を設けて実施していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ

<p>(～400 字程度まで) ※取り組み概要を記入。 他大学における既修得単位の認定については、必要に応じてシラバスの内容を確認し、本学部の該当科目との内容の整合性を確認するなどして、適切な認定を行っている。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・シラバス</p>	
③厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>(～400 字程度まで) ※取り組み概要を記入。 成績評価については、科目間での評価のばらつきは是正や評価の適切性を確保するため、現在、教務委員会を中心として、方策の検討を進めている。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・(現代福祉学部) 成績評価割合のガイドラインについて</p>	
3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。	
①教育成果の検証を学部(学科)ごとに定期的に行っていますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p><b>【検証体制および方法】</b> ※箇条書きで記入。 ・2010 年度の学科改組にともない再編成されたカリキュラムに対して、「授業改善アンケート」や学部が独自に実施している「カリキュラム改善アンケート」の結果に基づき、カリキュラム検討委員会、教授会懇談会、将来構想委員会等において改善点の検討を行ない、2014 年度からの新しいカリキュラム編成に反映している。 ・学生への「モニタリング調査」を毎年実施し、教育成果を検証している。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2015 年度 授業改善アンケート結果 ・2015 年度 学生へのモニタリング調査結果</p>	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p><b>【利用方法】</b> ※箇条書きで記入。 ・教授会において情報の共有化を図っている。 ・学生の満足度の高い複数の授業については、大学院教授会と合同開催の Well-being 研究会において、担当者による教育方法と授業改善に関する研究報告とディスカッションを行っている。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2015 年度 授業改善アンケート結果 ・2015 年度 Well-Being 研究会の開催案内</p>	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (必須項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

<p>・学生の学習時間をより確保するために、シラバスの【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】項目に具体的な記述をするよう各教員に促していく。</p>
--

**【この基準の大学評価】**

<p>現代福祉学部では学年ごとの履修ガイダンスを年度はじめに行うことできめ細かな指導を目指し、これに加えて専任教職員による個別の履修相談が行われている。学習指導が原則として学生数 20 名以下の少人数で行われているのは評価できる。</p> <p>2014 年度から教務委員会により、すべてのシラバスが適切に作成されているかを検証されており、さらに学生からのフィードバックによりシラバスに基づく授業展開がおこなわれているかが検証されている。</p> <p>シラバスに毎回の授業内容が明示されることで、予習、復習を確保する配慮が行われている。学部長インタビューによると、80～90%の学生が履修する実習授業では事前の準備と事後の振り返りと報告のため十分な学習時間が求められ、ま</p>
--



た Well-being 研究会において大規模授業におけるアクティブラーニングをテーマにして FD 活動が行われた。

相互授業参観による授業形式の情報交換を通じて、新たな授業形態を追究している点は評価できる。成績評価については、科目間での評価のばらつきは是正や評価の適切性を確保するための方策の検討が進められており、一部の授業を除いて、成績評価の基準の統一が図られている。他大学における既修得単位の認定については、必要に応じてシラバスの内容を確認し、本学部の該当科目との内容の整合性を確認するなどして、適切な認定を行っている。「授業改善アンケート」に学部独自の「カリキュラム改善アンケート」、学生への「モニタリング調査」を上乗せし、その結果を教授会で共有する努力が行われている。

#### 4 成果

##### 【2016年5月時点の点検・評価】

##### (1) 点検・評価項目における現状

###### 【学位授与方針】

Well-being を実現するための人材養成という学部・学科の教育理念を踏まえ、学位授与にあたっては、以下の方針とする。

1. 基礎的なスキルとして、コミュニケーション・スキル、情報リテラシー、論理的思考力を習得すること。
2. Well-being を多角的に理解するための、幅広い知識を習得すること。
3. Well-being を実現する人材として必要な倫理的態度、自己管理能力、チームワークを習得すること。
4. Well-being をコミュニティで実現するために必要な専門的知識、専門的スキルを獲得すること。
5. 大学で習得した専門的知識や専門的スキルを持って、自らフィールドに出かけ、様々な専門職や地域住民などと協力しながら、コミュニティで起きている実際の課題に取り組み解決する力を獲得すること。
6. 身に付けた知識・スキル・態度を総合的に活用し、自らが立てた研究課題にそれらを適用し、卒業論文としてまとめあげる力を習得すること。

##### 4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。

①学生の学習成果を測定していますか。

A  B C

(～400字程度まで) ※取り組みの概要を記入(習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等)。英語に関して、入学時と1年終了時にテストを実施し、学習成果を測定している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・アチーブメントテスト結果

②成績分布、進級などの状況を学部(学科)単位で把握していますか。

はい いいえ

【データの把握主体・把握方法・データの種類等】※箇条書きで記入。

- ・成績分布、進級状況などについては適切に把握し、教授会において情報共有がなされている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・現代福祉学部 進級・卒業審査資料

③学習成果を可視化していますか。

A  B C

【学習成果可視化の取り組み】※取り組みを箇条書きで記入(取組例: 専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等)。

- ・4年間の学習成果としての卒業論文について、そのテーマの一覧を作成し、教員間で情報共有がなされている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2015年度 現代福祉学部卒業生 卒業論文テーマ一覧

##### 4.2 学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか。

①学生の就職・進学状況を学部(学科)単位で把握していますか。

はい いいえ

【データの把握主体・把握方法、データの種類等】※箇条書きで記入。

- ・学部内に就職委員会を設置し、専門ゼミを通して実態把握を行い、教授会で報告し実態を把握している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2015年度 学生の就職・進学状況一覧

##### (2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書き

でそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (必須項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

・学生成果の測定のために、優秀な卒業論文の顕彰（報告会等の実施）について検討する。
---

【この基準の大学評価】

<p>現代福祉学部では Well-being を実現するための人材養成という学部・学科の教育理念を踏まえ、多角的な側面からの学位授与方針が定められており、学位授与は適切に行われている。個別科目の学習成果測定については、英語に関して入学時と1年終了時のテストで測定されている。学部長インタビューによると、毎年一定数が社会福祉士や精神保健福祉士の資格を取得し、また人間社会研究科臨床心理学専攻に毎年10名程度が進学し、修了生のほとんどが臨床心理士資格を取得しており、高く評価できる。</p> <p>成績分布、進級状況は教授会で情報共有がされており、4年間の学習成果としての卒業論文について、そのテーマの一覧を作成し、教員間で情報共有がなされている。就職・進学状況については、学部内の就職委員会が専門ゼミを通して実態把握を行い、教授会で報告し実態を把握している。</p>
--

5 学生の受け入れ

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

<p>【学生の受け入れ方針】</p> <p>「Well-being＝健康で幸福な暮らしと社会の実現」これが学部の教育理念である。</p> <p>少子高齢化、子どもの貧困問題、雇用の流動化、地域間格差拡大など、21世紀が直面している社会的課題は多い。これらの社会が抱える課題やこころの問題を理解し、未来に向けて Well-being を創造するための政策立案から課題解決までの力を育むために、本学部では、「福祉」「地域」「心理」の三領域が連携し、研究実践している。</p> <p>福祉コミュニティ学科では、人びとの生き方や暮らしのあり方、コミュニティの仕組みや制度を視野に入れ、豊かな福祉社会の創造に貢献できる専門的人材を養成することを目標にしている。</p> <p>臨床心理学科では、個人・家族・企業・コミュニティにかかわる心理学やこころの問題に向き合う臨床心理のスペシャリストを養成することを目標にしている。</p> <p>また、カリキュラムでは、1年生から始まる少人数のゼミ形式の演習、各専門分野の実習の他、海外研修、国内研修の制度も用意しており、現場での体験により視野を拡げながら専門性を深められるようにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力を重視しバランスのとれた学力を有する学生の選抜：一般入試、統一日程入試、大学入試センター試験利用入試</li> <li>・自発性、指導性、自由な発想力をもつ優秀な学生の受け入れ：指定校推薦入試</li> <li>・高大連携により特色ある教育を目指し、意欲のある学生の受け入れ：附属校推薦入試</li> <li>・まちづくり実践へのモチベーションの高い学生の受け入れ：まちづくりチャレンジ入試（自治体推薦特別入試）</li> <li>・学業とスポーツを両立できる優れた人材の受け入れ：スポーツに優れた者の特別推薦入試</li> <li>・国際性を身につけた勉学の意欲のある外国人留学生の受け入れ：外国人留学生入試</li> </ul> <p>上記のような多様な入試により、「福祉」「地域」「心理」にまたがる学際的で応用範囲の広い知識や能力を身につけ、社会福祉の専門職であるソーシャルワーカー（社会福祉士、精神保健福祉士）や臨床心理の専門職、グローバルな視点とローカルな思考から国や地方自治体、企業、NPO、NGO や社会的企業などで活躍することを夢見て、本学部での学びに意欲や関心のある入学生を求めている。</p>	
<p>5.1 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。</p>	
<p>①定員の超過・未充足に対し適切に対応していますか。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>はい <input type="checkbox"/>いいえ</p>
<p>(～200字程度まで) ※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。</p> <p>収容定員に基づき、在籍学生数が適正に管理されている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p>	

・特になし						
定員充足率（2011～2015年度）						（各年度5月1日現在）
種別\年度	2011	2012	2013	2014	2015	5年平均
入学定員	220名	220名	231名	231名	231名	
入学者数	225名	221名	227名	230名	245名	
入学定員充足率	1.02	1.00	0.98	1.00	1.06	1.01
収容定員	880名	880名	891名	902名	913名	
在籍学生数	933名	914名	930名	933名	938名	
収容定員充足率	1.06	1.04	1.04	1.03	1.03	1.04

5.2 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

①学生募集および入学者選抜の結果について検証していますか。 A  B C

**【検証体制および検証方法】** ※箇条書きで記入。  
 ・前年度の学生募集および入学者選抜結果については、教務委員会および教授会に報告がなされ、その適切性について逐次検討を行なっている。

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。  
 ・特になし

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・指定校からの入学者が少ないため、指定校の見直しを行う。
------------------------------

**【この基準の大学評価】**

現代福祉学部では基礎学力を重視しバランスのとれた学力を有する学生の選抜を目的とする「一般入試、統一日程入試、大学入試センター試験利用入試」、自発性、指導性、自由な発想力をもつ優秀な学生の受け入れを目指す「指定校推薦入試」、高大連携の利点を活かした意欲のある学生の受け入れを可能にする「付属校推薦入試」の基本の上に、まちづくり実践へのモチベーションの高い学生の受け入れを目指す学部独自の選抜方法である「まちづくりチャレンジ入試（自治体推薦特別入試）」が行われていることは、学部の教育理念である「Well-being＝健康で幸福な暮らしと社会の実現」が反映されているものとして評価できる。

在籍学生数は収容定員に基づき適正に管理されている。前年度の学生募集および入学者選抜結果が教務委員会および教授会に報告され、適切性についての検討が行われている。

6 学生支援

**【2016年5月時点の点検・評価】**

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 学生への修学支援は適切に行われているか。

①卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況を学部（学科）単位で把握していますか。  はい  いいえ

**【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】** ※箇条書きで記入。  
 ・教務委員会および教授会において把握し、適切な対応が行われている。

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。  
 ・現代福祉学部 進級・卒業審査資料

<ul style="list-style-type: none"> <li>・留級者一覧</li> <li>・休学届、退学届</li> </ul>	
②成績が不振な学生に対し適切に対応していますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p><b>【成績不振学生への対応体制および対応内容】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成績不振の学生については、年度当初の学年別のガイダンスとは別に、留級者を対象としたガイダンスおよび個別相談を実施している。また、低 GPA 学生を抽出し、ゼミ担当教員・教務委員を中心に当該学生の状況を確認する等、きめ細かな対応を行っている。</li> </ul> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンス日程、履修相談会相談用紙</li> <li>・低 GPA リスト</li> <li>・成績不振、長期欠席学生等への対応について</li> </ul>	
③学部（学科）として外国人留学生の修学支援について適切に対応していますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>(～400 字程度まで) ※外国人留学生の修学支援に関する取り組みの概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学時のガイダンスにおいて、外国人留学生を対象としたガイダンスおよび個別相談を実施している。</li> </ul> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンス日程</li> </ul>	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし
-------

**【この基準の大学評価】**

<p>現代福祉学部の卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況は教務委員会および教授会において「進級・卒業審査資料」「留級者一覧」「休学届、退学届」のかたちで把握され、適切な対応が行われている。年度当初の学年別のガイダンス時には個別相談をきめ細かく行い、留級者を対象としたガイダンスを別途実施している。また、10月から11月に低 GPA 学生や長期欠席者を抽出し、ゼミ担当教員・教務委員を中心に当該学生の状況を確認する等、きめ細かな対応が行われている。外国人留学生には入学時にガイダンスおよび個別相談が実施されている。</p>
--

7 内部質保証

**【2016年5月時点の点検・評価】**

(1) 点検・評価項目における現状

7.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。	
①質保証委員会は適切に活動していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p><b>【2015年度質保証委員会の構成、開催日、議題等】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学部に FD 検討委員会ならびに質保証委員会を設置し、定期的な検討を行っている。</li> <li>・FD 検討委員会において、「授業改善アンケート」等をもとに FD を検討するとともに、全学的な自己点検・評価活動については質保証委員会で検証を行っている。</li> <li>・質保証委員会の構成は、学部執行部以外の教員から選出している。</li> <li>・2015 年度は、4 月に年度目標と達成指標案を確認し、2 月には年度目標の達成状況を点検した。</li> </ul>	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書き

でそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

**【この基準の大学評価】**

現代福祉学部内に質保証委員会を設置し、定期的な検討を行っている。質保証委員会は全学的な自己点検・評価活動を任務としており、学部執行部以外の教員から委員を選出することで客観性、公正性を確保している。2015年度は、4月に年度目標と達成指標案を確認し、2月には年度目標の達成状況を点検しており、質保証委員会は適切に活動している。

**【大学評価総評】**

現代福祉学部では、学部として目指すべき方向性を「現代福祉学部の理念」と「現代福祉学部の教育目標」として明文化し、それにもとづいて、改善の方向を明らかにして達成目標に向け努力していると評価できる。

教員像・教員組織については、教員に求める能力・資質等を、学部教授会内規等に明文化しており、大学院担当教員についても、学部同様の規程整備が行われ、大学院教育への順次的連続性と専門性の確保の努力が行われている。採用にあたっては、カリキュラムにふさわしい教員組織を形成するため、年齢層の偏りが解消されつつある。

教育課程・教育内容については、カリキュラムの順次性・体系性を維持しつつ、学生の能力育成のためのカリキュラム改編が2014年度から行われている、2つの学科を通じて専門性の高い職業人の養成を目標に、基礎から応用へと学習の体系性・順次性を確保したカリキュラム編成がなされていると評価できる。

教育方法については、学年ごとの履修ガイダンス、専任教職員による個別の履修相談が行われている。さらに「授業改善アンケート」に加えて学部独自の「カリキュラム改善アンケート」、学生への「モニタリング調査」など学生からのフィードバックや相互授業参観による授業形式の情報交換を通じて新たな授業形態を追究している。これらをさらに有機的に組み合わせ、より発展させることが期待される。

学生の受け入れについては、アドミッション・ポリシーが学科ごとに適切に明示されている。内部質保証については、FD検討委員会、質保証委員会、教授会など様々な会議体で情報共有や検討がおこなわれている。自己点検・評価結果および大学評価委員会の評価結果については、教務委員会、教授会および学部教育に関する中・長期的検討を行う将来構想委員会において、その内容を共有し、対応に関する検討を行っている。